

## はじめに

情報処理センター所長 坂 東 昌 子

「情報処理センター誌の愛称はコムかロゴか」、こんな話をしたのは1989年です。ロゴは論理の象徴、コムはコミュニケーションの象徴です。やはりコムがいいな、仲間と共有する、協力する、そんな広場のイメージがあるな、情報処理センターが教えあい響きあい学びあう広場になってほしいな、そんな願いをこめて、「コム」という名前が決まりました。

1988年の三好キャンパスの開校とともに念願の情報処理センターが発足し、コムが発刊されたころです。

「ハードはなくともハートで勝負」がその頃の合言葉でした。パソコンが普及しはじめ、これまで計算機機能が中心であったコンピューターが、情報の収集や交換の道具になり初め、単に施設ができただけでは十分ではないと、さまざまな分野の教員が知恵を出し合って、「たとえ設備が充実し、ハードが整っても、それに伴うソフトを支えるハートがなかったら、情報処理センターもただの箱だ、それに魂を吹き込もう」という意気統合しました。

情報処理センターに関係する教員も職員も、そしてその頃初めて誕生した学生相談員も、みんな同じ部屋でわいわいがやがや相談しながら、新しい情報教育の普及のために協力しました。コムには、上下のない関係のイメージもあります。

情報という名前の語源は軍隊用語だそうです、上から下への情報の流れは「命令」で、下から上への伝達は「情報」というのだそうです。平等な関係を意味しているのですね。

21世紀は、市民が主役になって社会を変革していく時代、そのなかで、情報は重要な役割を果たします。

しかし、下からの民主主義に根ざした情報にも、無駄な情報と価値のある情報、良質の情報と悪質な情報、があります。良質の情報は人を勇気づけ、人にエネルギーを与えます。逆に、意図的に流される悪質な情報は、時には暴力となります。その典型は人をおとしめる噂です。噂は公に弁明できないのでよけいやっかいで、そのために人を傷つけます。ですから、情報の受け手の間に協力関係がなければ、情報にも価値は

ありません。コムというのは、元気の源になる情報を共有するといったイメージもあります。

受け手の協力関係に根ざした情報の上に、成熟した民主主義が育つのだと思います。ですから、情報を的確に判断する知性を持つ市民がいて初めて、世論を動かすことができ、情報が生きてきます。

情報処理センターは、今では愛知大学の中でも格段の設備を誇る最も恵まれた施設の1つとなり、更に、次期システム計画の作成期に入りました。規模が大きくなると、ともすると手作りの良さが失われます。

時代とともに変わりゆく情勢のなかで、知恵を寄せ合い、勉強しながら協力して次期目標を立てていきたいものです。